

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2026年8月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2026年8月7日～8月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 124社
- 回収率 62.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況※全産業の8月の状況を見ると業況DIは、前月より2.8ポイント悪化の▲28.2なった。

2017年9月以来108ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲26.6、当月と比べ1.6ポイント改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2026年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2026年9月～ 2026年11月
業況	▲19.4	▲28.9	▲36.7	▲28.8	▲25.4	▲28.2	▲26.6
売上	▲7.7	▲10.3	▲10.0	▲21.2	▲11.0	▲10.5	▲15.3
採算	▲17.8	▲23.8	▲30.9	▲31.4	▲31.3	▲25.8	▲25.8
仕入単価	▲62.8	▲68.9	▲69.1	▲74.6	▲72.9	▲75.0	▲64.5
販売単価	27.1	30.4	30.0	35.6	33.1	27.5	25.8
従業員	37.2	30.4	27.5	27.1	28.8	29.1	30.7
資金繰り	▲14.7	▲16.3	▲14.2	▲14.4	▲20.4	▲18.5	▲14.5

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2026年 3月	4月	5月	6月	7月	8月	先行き見通し 2026年9月～ 2026年11月
建設	▲24.2	▲40.0	▲46.2	▲46.4	▲32.2	▲32.0	▲24.0
製造	▲17.3	▲25.8	▲29.6	▲20.7	▲19.3	▲27.6	▲24.1
卸売	▲21.4	▲14.8	▲22.2	▲9.5	▲16.6	▲16.0	▲32.0
小売	▲44.4	▲33.4	▲45.0	▲40.0	▲36.8	▲42.9	▲33.3
サービス	▲4.0	▲30.8	▲45.0	▲25.0	▲23.8	▲25.0	▲20.9

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・工事受注量の低下及び資機材価格・下請施工費の高騰により利益を圧迫している。（総合工事） ・肥料となる尿素的の仕入価格急騰で製造原価が上昇しており、引き続き、先行きは見通せない状況である。（設備・その他） ・従業員(技能者)の高齢化が進み退職者も出始め、人手不足が最もの問題となっている。伴い施工品質の維持継続が出来なくなることが心配である。また大型物件の対応も問題となり、工事受注への影響も懸念される。（建築業）
製造業	・国内は買い控え傾向にある。公庫の金利引き上げは見直してほしい。中小の投資の勢いを冷ましている状態。受注が一時的に止まったことがあった。（金属窯業他） ・エネルギー、資材関係のコストが高止まりしている。一般消費者の消費が鈍化しているが、O E M・特注関係は需要が増えてきている。（家具・木材）
卸売業	・物価上昇に伴う好品の買い控えが大きい。季節感、目新しさで足を運んでもらいたいと努力している。（食料品） ・一部の仕入先から10月から値上げの案内が来ている。いつまで続くのか先が読めない。（機械鋼材） ・灯油の仕入価格は小幅に上下を繰り返しているが、販売価格に変更なし。商事部門で売上が減少傾向にあり、利益が減少している。（その他）
小売業	・8月に入り真夏の暑さが続き、夏物商品（Tシャツ、半袖、ショートパンツ）の動きがあるが、来店客数が少なく売上がなかなか伸びなく、お盆時期の帰省客もコロナ以降少なくなった。秋物商品の入荷も始まり資金繰りが大変である。（衣服身回品） ・今月は夏休みやお盆期間の観光需要、旭川駅前のイベント開催などにより、人流は前月までと比較して回復傾向。特に朝夕の時間帯を中心に観光客の来街が増加、インバウンドの利用も昨年より落ちるものの一定数確認。平日は人通りが落ち着く場面も見られ、観光需要による押し上げ効果があるが、時間帯によって客足に大きな差が見られる。イベントの継続による来街の増加に加え、宿泊やインバウンド需要の回復が市街地の消費拡大につながることを期待。（食料品） ・販売商品の入荷状況は改善されはじめてきたが販売量が減少。（自動車） ・仕入価格上昇分の販売価格への転嫁が遅れている。慢性的な人手不足により働き方改善を検討している。公共工事への燃料油出荷が減少している。（その他）
サービス業	・夏休み、盆休みの宿泊減。家族観光、盆帰省が昨年より減っている。またホテル老朽化に伴い設備投資が必要。（ホテル・旅館） ・同じ売上でも価格が下落のため稼働率を追って売上を作らなければならない。そうするとコストも増加し、利益が出にくい状況になっている。（ホテル・旅館） ・若手技術者の採用難や人手不足が深刻化する中、賃金上昇や原材料・エネルギー価格の高騰により経営コストが増加しており、収益確保と人材育成の両立が大きな経営課題となっている。（その他） ・業績は昨年と同レベルと想定しているが、イラク情勢の行く先が不透明であるため予断は許さない。円安、物価高に収入の伸びが追いついていないので国内の需要は期待できない分、インバウンドが減少するような事象が発生しないことを祈るのみである。（その他） ・9月から値上げを実施することで増収を期待。人材不足や設備更新投資の源資としたい。10月には最低賃金改定で人件費施策も見直しが迫られる。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI10.6 ポイント悪化、採算 DI15.4 ポイント悪化、仕入単価 DI2.6 ポイント改善、販売単価 DI12.1 ポイント悪化、資金 DI10.1 ポイント悪化、従業員 DI5.2 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 0.2 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事 2 ポイント悪化、建築業横ばい、設備・その他 9 ポイント改善となった。中東情勢に伴う原価高騰が続いており、市場への転嫁が追いついていないとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI9.3 ポイント悪化、採算 DI13.5 ポイント改善、仕入単価 DI9.3 ポイント悪化、販売単価 DI5.5 ポイント改善、資金 DI2.6 ポイント悪化、従業員 DI5.6 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 8.3 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 2 ポイント、家具・木材 16 ポイント改善、印刷・出版 20 ポイント、金属窯業他 32 ポイント悪化となった。原材料・エネルギー価格・労務費等のコスト増や価格転嫁、国際情勢等との声も寄せられている。
卸売業	売上 DI8.5 ポイント改善、採算 DI24.9 ポイント改善、仕入単価 DI2.5 ポイント改善、販売単価 DI9.5 ポイント悪化、資金 DI4.5 ポイント改善、従業員 DI4.8 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 0.6 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、食料品 8 ポイント、その他 17 ポイント悪化、繊維・衣服等 33 ポイント、機械鋼材 2 ポイント改善となった。販売単価の転嫁はできているが販売数量の増加が今後の課題であるとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI3.5 ポイント改善、採算 DI0.3 ポイント悪化、仕入単価 DI4.0 ポイント悪化、販売単価 DI2.8 ポイント改善、資金 DI12.6 ポイント改善、従業員 DI5.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 6.1 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 11 ポイント改善、衣料品横ばい、その他 13 ポイント、自動車 20 ポイント悪化となった。観光客の来店が思っていたほど伸びなかった。ネットでの販売が少し伸びてきている。扱っている商品の価格が軒並み上昇しているとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI10.1 ポイント改善、採算 DI4.1 ポイント改善、仕入単価 DI1.8 ポイント悪化、販売単価 DI15.4 ポイント悪化、資金 DI8.9 ポイント改善、従業員 DI7.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 1.2 ポイント悪化となった。業種別では、その他 33 ポイント、整備業 50 ポイント改善、理美容・クリーニング、運送横ばい、ホテル・旅館 50 ポイント、飲食 3 ポイント悪化となった。売上は横ばい状態だが、材料費と人件費の上昇が止まらず利益が減少するとの声も寄せられている。